

魅力をつなぐプロジェクト 今年度検討したアクションプラン

防災プロジェクト

- ：ダムを活用した防災教育プログラムの推進
- ：丸山ダム・新丸山ダム見学者を対象とした2市2町への周遊促進

グルメプロジェクト

- ：2市2町のグルメイベントへの参加

自然アクションプランプロジェクト

- ：流木を活用したアートイベントの実施検討

情報発信プロジェクト

- ：丸山ダム管理支所における地域振興ブースの設置
- ：他プロジェクトの試行等におけるロゴマークの活用

新丸山ダム水源地域振興ビジョンの振り返り

■新丸山ダム水源地域協議会として目指す地域振興について

【地域振興の軸（ビジョン本文の内容より）】

①資源を磨き、発掘し、つなげる (魅力を高める)

- ☆多様で豊富な地域資源の更なる磨きあげ、新たな資源の発掘を行う。
- ☆地域らしさを大切に、多様な資源をつなげてネットワーク化する。

②来訪者や関係人口を増やす (人を集める≡ダム見学者を2市2町の周遊に促す)

- ☆それぞれが短所を補い長所を高める連携により、様々な取り組みに付加価値を与え、周辺地域の満足度を高める。
- ☆地域で暮らす人が豊かに暮らし、住みやすく、賑わいのある地域振興により、地域への愛着・誇りを醸成する。

③地域経済の好循環を生み出す (消費の活性化を促す)

- ☆情報発信力を向上し、サービス、製品の付加価値を高め消費行動を高める。
- ☆新しいニーズに対応したサービス、商品開発を行い、リピーターの創出につなげ持続的に地域経済への好循環を生み出す。

新丸山ダム周辺地域の目指す地域振興

【地域資源】豊かな自然、日本らしい美しい景観、懐かしい原風景、歴史的に価値の高い文化財、地域の伝統芸能、食文化



地歌舞伎



化石発掘体験



坂折棚田



岩村城跡



杉原千畝記念館



栗さんどん



鬼岩公園



謡坂石畳

- 情報発信力を向上し、サービス、製品の付加価値を高めます。
- 地域の特徴を活かしたターゲティング、ブランディングを行います。
- 新しいニーズに対応したサービス、商品開発を行います。

資源を
磨き、発掘し、
つなげる
(魅力を高める)

- 豊富な地域資源を活かし、さらに磨きをかけて優れた資源に成長させます。
- 新たな資源を発掘・育てます。
- 多様な資源をつなげて、ネットワーク化します。

地域の目指す
地域振興
周辺地域の魅力を高め、
満足度を継続的に高める

地域経済の
好循環を
生み出す
(消費の活性化)

来訪者や
関係人口を
増やす
(人を集める)

- 関係する行政機関や経済団体等が連携し、様々な取り組みに付加価値を与えます。
- 充実したネットワークの形成により、新たな来訪者や移住者を呼び込みます。
- 地域で暮らす人が豊かに暮らし、賑わいのある地域をはぐくむ地域振興により、自らの地域への愛着・誇りを醸成します。

リピーターの創出につなげ持続的に地域経済の好循環を生み出す

令和4年度 とりまとめ

⇒今年度は特に、2市2町・ダム関係機関がそれぞれで抱える課題や、更なる展開を図っていきたい内容に対して、WG内で意見交換を行い、各機関が保有する強みによって補強し合うことができた。

令和6年度 協議会・ワーキンググループ

○魅力をつなぐプロジェクトのアクションプランの検討にあたり、今年度3回のワーキンググループを実施した。

参加機関：瑞浪市、恵那市、八百津町、御嵩町、関西電力（株）、国土交通省木曽川水系統合管理事務所・新丸山ダム工事事務所

第1回

6/18(火)
参加者18名

【議事】

- (1)令和5年度の新丸山ダム水源地域協議会・WGの振り返り
- (2)令和6年度のWGの目的・位置づけ、進め方について
- (3)ワークショップ

【テーマ】試行するプロジェクトの選定



第2回

9/26(木)
参加者14名

【議事】

- (1)第1回WGの振り返り
- (2)魅力をつなぐ各プロジェクトに関する情報共有
- (3)ワークショップ

【テーマ】ダム見学者に2市2町を周遊してもらう仕掛けについて



第3回

12/24(火)
参加者21名

【議事】

- (1)第2回WG、試行内容の振り返り
- (2)今後の進め方について
- (3)ワークショップ

【テーマ】来年度アクションプランのブラッシュアップ



第6回協議会 2/17(月)

【議事】

- (1)魅力をつなぐプロジェクトの今年度の取り組み内容の報告
- (2)アクションプランの更新内容の報告

昨年度協議会の意見を踏まえた今年度の取り組み

・昨年度の協議会より首長から頂いた意見を踏まえ、今年度実施した取り組み内容を以下に整理した。

首長からの意見

- 【水野瑞浪市長】
- ・ **次の展開に向けた議論の必要性(⇒P12)**
 - ・ 既に磨きあげられている**2市2町の資源をどのように繋げて広げていくかが重要(⇒②)**
- 【小坂恵那市長】
- ・ **発酵食品サミットは、事業者も通して協力でき、良い機会となった(⇒③)**
 - ・ **令和6年度は、恵那峡100周年となる。地域の特産品等のイベントの連携(⇒③)に加え、水力発電等のダムを活用したクリーンエネルギーに関しても地域特有のPR(⇒②)となる。**
- 【金子八百津町長】
- ・ **新丸山ダム水源地域協議会ロゴマーク(⇒⑥)**は、更なる連携強化に繋がると良い。
- 【渡辺御嵩町長】
- ・ **今しか見られないという視点でPR(⇒⑤)を行い、特産品等を活かしながら、木曽川上流部として広域の連携(⇒③)を強めていくことが重要**
- 【小森関西電力(株)東海支社長】
- ・ 歴史的な地域資源と**最新のデジタル技術を融合(⇒②)**させた新旧一体のコンテンツに挑戦することも効果的
- 【稲垣木曽川ダム統合管理事務所長】
- ・ **最新のデジタル技術も活用しながら(⇒②)**、更にPRし、観光資源として磨きあげていく必要がある。
- 【加納新丸山ダム工事事務所長】
- ・ **今後の方針についても、継続してワーキンググループで議論(⇒P12)し進めていくことが重要**

今年度実施した取り組み

- | | |
|------|---|
| 防災 | <p>①ダムを活用した防災教育プログラムの推進
⇒防災×キャリア教育としての副読本の制作
【実施済み】八百津町（他市町への展開も検討）</p> <p>②丸山ダム・新丸山ダム見学者を対象とした2市2町への周遊促進
⇒ダムを目的とした来訪者を対象に、2市2町への周遊を促す仕掛けを展開
☆新丸山ダム工事事務所にて、デジタルサイネージ等の最新のデジタル技術を活用した広報スペースのリニューアルを進めており、ダム事業の理解促進と合わせ、地域の観光場所としての活用も検討中</p> |
| | <p>③グルメイベントを通した2市2町の連携
⇒木曽川上流域における特産品等を活用した広域連携
【実施済み】
御嵩町：よってりゃあみたけ(10/19開催)
恵那市：阿木川ダムのキッチンカー
[大井ダム完成100周年連携イベント](11/3開催)</p> |
| 自然 | <p>④流木を活用したアートイベントの実施検討
⇒来年度の丸山ダム70周年イベントと合わせ、地元関係者と連携した流木アートイベントに向けた調整
【実施済み】流木活用に関する意見交換会（9/24開催）</p> |
| 情報発信 | <p>⑤丸山ダム管理支所における地域振興ブースの設置
⇒今しか見れないダム建設の広報とダム見学者を対象とした2市2町の情報展開（展示内容、来訪者に対する周知方法 等）</p> <p>⑥他プロジェクトの試行等におけるロゴマークの活用
⇒昨年度作成したロゴマークを今年度実施するプロジェクトにて活用（グルメイベントの出店舗で掲示）</p> |

プロジェクト実施内容：防災プロジェクト

■アクションプラン・実施背景

①「ダムを活用した防災教育プログラムの推進」

新丸山ダムを周辺地域共通の防災教育資源として活用し、学校教育のカリキュラムに防災教育を取り入れ、地域の新丸山ダムの認知度向上及び地域の防災意識向上を目的に進めた。

■成果・効果

⇒教育委員会や先生方と密なコミュニケーション(打合せ計4回)を図ったことにより、教育現場にあった形で、地域の特性を活かした防災教育の教材(成果物：八百津町副読本)ができ、教育機関との関係構築にも繋がった。

⇒ダムの機能に加えて、地域内の水の循環に関する内容を組み込み、新丸山ダムの建設をきっかけとして、子ども達が地域に対する理解を深め、愛着醸成に繋がる内容にすることができた。

■今後の取り組み

⇒新丸山ダム建設事業を防災教育資源として活用し、**防災教育×キャリア教育の推進を図りながら、教育機関・先生等の意向も踏まえた形の市町への水平展開を進める。**

⇒防災教育の定着と合わせ、**子ども達からその家族まで広げて、地域への愛着醸成を図る。**

木曽川の水害を防ぐ工夫

この地域の木曽川では、1983年以来、大きな水害が発生していません。

それはなぜなのでしょう。

「だれかが水害をふせぐために、何かやるんじゃないかしら？」

「どんな事をしているんだろう？
想像できないね。」

「きっとわたしたちが知らないだけで、いろいろな人たちが水害をふせぐために働いていると思うわ。」

水害をふせぐために、いろいろな仕事の人たちがさまざまな工夫をしています。



国土交通省の人の話

わたしたち国土交通省は、木曽川で水害が起きないように、いろいろな取り組みをしています。
木曽川から水があふれないように堤防などを作り、水害から地域を守る仕事をしています。

水害を防ぐためのこうぞうぶつ



① さばうえんてい

② ていぼう



③ 丸山ダム

④ 新丸山ダム(イメージ)

町の中にある物は何のために作られているのでしょうか？



国土交通省の人の話

八百津町では丸山ダムをパワーアップするために新丸山ダムの建設が進められています。
いまの丸山ダムよりも貯められる水の量が増えて、この地域のくらしは今よりもっと安心なものになります。

ページ追加

水はどうしてなくならないのでしょうか。

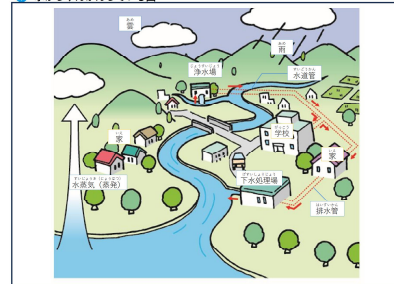
水のじゅんかんを考えてみよう



「どうして水はなくならないんだろう？」

川から海に流れた水はじょう発して雲になり、雨や雪になってふりそそぎます。雨や雪は地下水や川となり、ふたたびわたしたちが使う水になります。これを「水のじゅんかん」といいます。

① 水がじゅんかんしている図



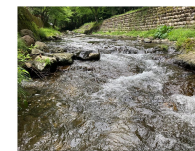
水のふるさについて考えてみよう



「水がじゅんかんしていることはわかったけど、水のふるさとってどこだろう？」

水のふるさととはどこにあるのでしょうか。

水道水のみなもとは山の森林から流れ出る川の水です。このような森林を水道水源林とよんでいます。



② 上流の様子



水道かんきょう課の人の話

ほかの市や町では遠くから水を引いていることが多いです。しかし、八百津町では自分たちの町の中ですべての水をまかっています。

水害やダムに関する説明と合わせ、八百津町が水のふるさと(水源地域)としての役割を担っていることを記載。

プロジェクト実施内容：防災プロジェクト

■アクションプラン・実施背景

②「丸山ダム・新丸山ダム見学者を対象とした2市2町への周遊促進」

新丸山ダムを周辺地域における共通の観光資源として活用し、ダムの来訪者を2市2町の周遊に繋げ、関係人口の増加を目的に進めた。

■成果・効果

⇒ダム見学者が月平均で約50名以上来訪している現状を共有し、ダム見学者を2市2町に周遊するための仕掛けについてWGにて意見出した。また、各機関が独自に取り組んでいるイベントに協議会として参加し、2市2町周遊促進に向けた連携の強化に繋がった。

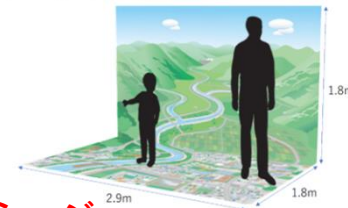
■今後の取り組み

⇒見学ツアーの実施に向けては、2市2町・ダム関係機関がそれぞれに持つ強みを活かした連携を行い、地域全体の関係人口増加を図る。

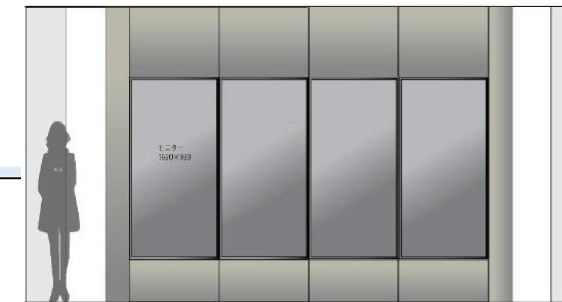
⇒観光マップやSNS、観光アプリ等の既存のコンテンツを活かして、引き続き周遊に向けた仕掛けを展開する。



現在、新丸山ダム工事事務所にて見学者向けの広報スペースのリニューアルも検討中。



デジタルサイネージ



ダム周辺観光情報

[新丸山ダム水源地域観光MAP](#)
新丸山ダム水源地域周辺の観光に役立つマップをご覧ください。

一般見学(個人)について:要予約

前日までに電話にてご予約をお願いします。
※ 見学希望の方は、注意事項をご覧ください。

●見学日

- 12月4日(水)
- 12月11日(水)
- 12月25日(水)

●時間

13:30から、1時間30分

●定員

各日6名以内

●集合場所

丸山ダム管理支所 1Fロビー

丸管HPにおいて、ダム見学の予約時に、観光マップへアクセスがしやすくなるよう、HPを更新しました。



プロジェクト実施内容：グルメプロジェクト

■アクションプラン・実施背景

③「グルメイベントを通じた2市2町の連携」

昨年度から継続して、2市2町の食文化を活用し、連携を図り、イベントへの参加など関係機関で調整を行い実施した。

■成果・効果

⇒協議会としてだけでなく、出店にご協力頂いた地域の事業者の方には協議会の取り組みについて知ってもらい、他の地域の方々との繋がりを広げていただく機会となり、情報発信や消費の活性化にも繋げることが出来た。

⇒協議会を通して募集することで、出店する事業者を2市2町から幅広く募集することが出来た。

■今後の取り組み

⇒継続的な実施に向けて、**役割分担を明確にし、枠組みの整理**を行いながら、**地域の食文化を通して、関係人口の増加**を図る。



■イベント詳細

名称：よってりゃあみたけ 夢色街道宿場まつり

日時：10月19日（土）13:00～20:00

場所：御嵩駅前周辺



【出店者コメント】

- ・他の出店者の方と情報交換できた事、御嵩地方の方々にお店のPRをできた事がとても良かった。
- ・他地域の出店で普段と異なるお客さんを対象としたことで、販売方法について改善点の発見にもつながった。

名称：オータムフェスティバルin阿木川ダム

日時：11月3日（日）9:00～15:00

場所：阿木川ダム周辺



八百津町
店舗名：ぽん菓子道場よしだ
商品：焼栗



【出店者コメント】

- ・ダム関連のイベントで大変大勢の訪問者があり驚いた。
出店できて感謝している。

プロジェクト実施内容：自然アクティビティプロジェクト

■アクションプラン・実施背景

④「流木を活用したアートイベントの実施検討」

丸山ダムでは、多くの流木が「ダムごみ」として処分されている現状から、資源の活用を図れないかと提案があり、流木のアートイベントの実施検討を進めた。

■成果・効果

⇒流木の処理には、費用もかかることから、アートイベントの実施を図ることで、コスト削減、環境配慮も踏まえた資源の有効活用に繋がる。

⇒WG内で情報共有したことにより、ダム管理の課題について認識いただく機会となったことに加え、市町の小学生を対象とした体験イベントとの連携などのアイデアが挙がり、各市町の取り組みと合わせた課題解決を進めることができる。

■今後の取り組み

⇒来年度の丸山ダム70周年イベントと連携し、子ども向けの体験コンテンツとして、アートイベントの実施を進める。

⇒副読本の試行授業の中で流木を用いた防災教育を図る。



流木活用に関する意見を幅広く収集するため、事業者等も含めた意見交換および現地確認を行った。



ワーキンググループ内でも流木を活用したアート作品を紹介。



プロジェクト実施内容：情報発信プロジェクト

■アクションプラン・実施背景

⑤「丸山ダム管理支所における地域振興ブースの設置」

ダム見学者を対象に2市2町への周遊を促す仕掛けとして、ダム見学者への観光パンフレットの配布と、丸山ダム管理支所における地域振興ブースを設置した。

■成果・効果

⇒ダム見学者に向けて、2市2町・ダム関係機関の取り組みに関連する情報発信を行い、地域の周遊に繋げることが出来た。

■今後の取り組み

⇒地域振興ブースの内容および活用方法に関しては、WG等でも意見出しを行い、**ダム見学者を対象に2市2町の情報発信、周遊**を継続的に進める。

(なお、新丸山ダム工事事務所でも地域振興ブースを設置予定)



丸山ダム管理支所内にダム見学者向けに2市2町を周遊頂く仕掛けとして、地域振興ブースを設置しました。



■アクションプラン・実施背景

⑥「他プロジェクトの試行等におけるロゴマークの活用」

昨年度決定したロゴマークを活用し、2市2町・ダム関係機関で連携した情報発信の強化、サービス・製品の付加価値の向上を図ることを目的に進めた。

■成果・効果

⇒新丸山ダム水源地域協議会としてのロゴマークを活用したことにより、新丸山ダム水源地域協議会として一体感の強化に繋がった。

■今後の取り組み

⇒来年度以降も、**ロゴマークを積極的に活用し、2市2町・ダム関係機関で連携した情報発信と、サービス・製品の付加価値の更なる向上を図る。**



御嵩町および恵那市のイベントにて、ロゴマークを活用した広報を行いました。

今年度の成果と課題点のまとめ

・今年度の実施内容を踏まえ、成果(効果、コンテンツ・写真等)と課題点を以下に整理した。

実施方針	今年度実施した取り組み	成果	
		効果 (Before – after)	コンテンツ・写真等
魅力を高める	【防災PJ】 P4①② ・新丸山・丸山ダムを活用した小学生対象の副読本制作 ・丸山ダム・新丸山ダム見学者を対象とした2市2町への周遊促進 【自然アクティビティPJ】 P5④ ・ダムの流木を活用したアートイベントの実施検討	教育的価値の創造： 学校関係者の方に新丸山ダムを、地域資源として再認識頂けた。 ⇒作成したコンテンツ・企画の関心を今後高めていく。また、防災意識の向上に加え、地域の子供に地元への愛着を高めてもらう。	
人を集める	【防災PJ】 P4② ・丸山ダム・新丸山ダム見学者を対象とした2市2町への周遊促進 【情報発信PJ(グルメPJの取り組み内容含む)】 P4⑤⑥ ・2市2町のグルメイベントへの参加 ・イベント出展時におけるロゴマークの活用 ・丸山ダム管理支所における地域振興ブースの設置	新丸山ダム周辺地域の連携強化と認知度の向上： 関係機関の連携による広域的な魅力発信ができ、協議会の認知度向上にも繋がった。 ⇒関係機関の強みを活かし、継続的な連携強化を進め、関係人口の増加を目指す。	
消費の活性化を促す	【グルメPJ】 P4③ ・各市町の事業者も巻き込んだ、グルメイベントへの参加	地域経済への貢献： 地域間交流の促進を図ると共に、持続的な発展に向けて消費の活性化を促進した。 ⇒継続的に連携が図れるように体制の整備を行う。	

課題点（ワーキンググループ内の意見より）：

- ・これまでの取り組みを踏まえ、**歴史文化等の資源を活用した新たな取り組みへの展開**ができると良い。
- ・**作成したコンテンツ（ダムツアーコース、副読本、ロゴマーク等）**に関しては、**実用化や更なる魅力発信の強化に向けて活用方法を継続的に考えていく**必要がある。

当面の取り組み強化（案）について

・これまでの実施内容を踏まえ、当面の取り組み強化（案）を以下に整理した。

<当面の取り組み強化（案）>

	令和5年度 アクションプラン試行1年目	令和6年度（今年度） アクションプラン試行2年目	令和7年度 アクションプラン試行3年目	令和8年度 アクションプラン試行4年目
到達目標	○魅力をつなぐプロジェクトの作成 ○アクションプランの具体化 ○連携企画を一つでも試行	○防災教育としての教育機関との連携 ○魅力をつなぐプロジェクトの推進・関係者の拡大 ○アクションプランの更新	○令和6年度に制作した教育コンテンツ等の実用化と水平展開 ○継続的なプロジェクトの推進のための仕組み・体制の確立	○防災教育の更なる深化、流域全体への水平展開 ○過年度に磨きあげを行った資源を活用し、地域の経済活動への更なる貢献
実施内容	防災プロジェクト 流域全体の防災教育の展開、ダム見学者を対象とした市町の周遊の仕掛け等⇒地域資源と連携しながら最新技術の活用による防災力の強化			
	グルメプロジェクト 2市2町のイベントでの連携等⇒木曽川上流域における広域連携、新丸山ダム周辺地域のブランド力の更なる向上			
	自然アクティビティプロジェクト 流木の活用等⇒自然を活用した地域資源の磨きあげと廃材の有効活用による環境への配慮			
	歴史文化プロジェクト 歴史文化を活用した周遊企画等⇒地域資源を活用した広域連携の強化			
	情報発信プロジェクト ロゴマークの活用、広域的なPR等⇒他のプロジェクトと組み合わせた魅力の発信、新丸山ダム周辺地域のブランド力の更なる向上			
行事		大井ダム100周年	丸山ダム70周年	

新丸山ダム周辺地域が目指す地域振興(ビジョンより)：

『周辺地域の魅力を高め、満足度を継続的に高める』